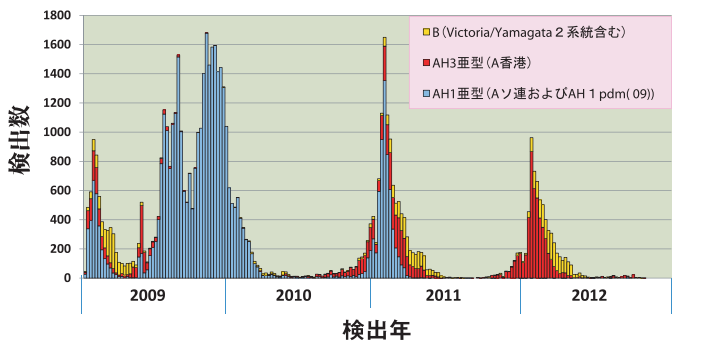
大阪市立環境科学研究所　第 115 号　平成24年12月

健康　環境　サイエンス

今年のインフルエンザは何型？

大阪市立環境科学研究所では、インフルエンザをはじめとする感染症についてその原因となるウイルスなどの病原体の調査を続けています。図は、全国で検出されたインフルエンザウイルスを型別に毎週集計したものです。2009年のはじめ（1～3月）は、主に検出されるウイルスがAH１亜型（Aソ連型）からB型に変わったこと、そして、2009年の中頃（6月）から2010年2月頃まで新型インフルエンザが大流行し、検出されるウイルスは、ほとんどAH１亜型（AH１pdm(09)型）だったことがわかります。2010年から2011年にかけての冬は、AH３亜型（A香港型）で始まり、AH１亜型（AH１pdm(09)型）に、そしてAH３亜型（A香港型）とB型へとウイルスは移り変わっていました。また、2011年から2012年の冬は、AH３亜型（A香港型）から冬の終わりにB型へと変わったことがわかります。今年は9月から11月1日までにAH３亜型（A香港型）59株、AH１亜型（AH１pdm(09)型）8株、B型2株が検出されています。

図　インフルエンザウイルス検出状況（2009–2012）



どうして病原体を調べるの？

感染症は、病原体が薬剤耐性を持つ病原体に変化したり、原因の病原体の種類によって重症化する割合（リスク）が増す場合があります。また、新型インフルエンザのように、それまでと異なる病原体が現れることで流行の規模が大きくなったりします。そのため、研究所では、現在流行している感染症について原因となる病原体の変化をすばやく把握して、その情報を予防や治療に活かしていただくために発信することで、感染症による影響をできるだけ小さくできるように努めています。

くらしのサイエンス講演会では

くらしのサイエンス講演会では、インフルエンザをはじめとする感染症について研究所で行った調査によってわかってきたことを解説し、感染症予防のために気をつけておきたいことなどを紹介します。

（大阪市立環境科学研究所　調査研究課企画グループ　後藤薫）

大阪市立環境科学研究所では、大阪府立公衆衛生研究所との平成26年4月の統合に向けて準備を進めています。今号２・３面には、大阪府立公衆衛生研究所からの記事として、第14回くらしのサイエンス講演会の講演内容の一部を掲載いたしました。

第14回くらしのサイエンス講演会申込案内は３面に掲載しています。